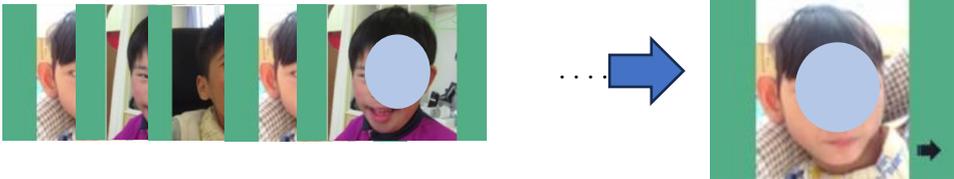
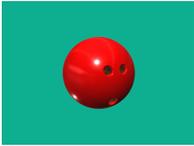
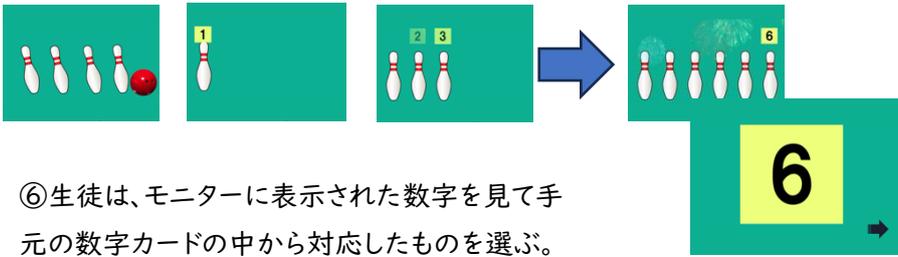


シート	中学部重複学級	自立活動:ボーリングをしよう
対象児童生徒の実態	<p>○上肢での細やかなコントロールは難しいが、iPad の画面をタッチして操作することができる。</p> <p>○iPad の画面を大型モニターに映した際に、両者の関係(同一性)を認識できる。</p> <p>○スイッチを押したりタブレットの画面にタッチしたりすることで、対応した画面上の変化を意識することができる。</p> <p>○モニター画面上の映像と手元の絵カードとの関連が理解できる。</p>	
使った機器やアプリ等	<p>○大型モニター、タブレット(iPad)、AppleTV、「ボーリング支援アプリ(Keynote 等)」</p> <p>メニュー画面</p>   <p>①離席しがちな生徒を優先させるため教師が状況を見ながら顔写真を押して人選する。</p> <p>②選ばれた生徒が画面(指マーク)を押すと生徒の顔写真が効果音とともに順次大型モニターに表示される。</p> <p>③最後に表示された生徒がボールを転がす。</p>  <p>④教師が倒れたピンの数に対応したメニュー画面の数字ボタンを押す。</p> <p>⑤ボール画面が表示され、その画面を転がした生徒が押すとピンが倒れるアニメーションが再生される。ピンの表示に連動させて数字の表示と読み上げが行われる。最後に数字が大きく表示される。</p>   <p>⑥生徒は、モニターに表示された数字を見て手元の数字カードの中から対応したものを選ぶ。</p>	

<p><b>児童生徒の学習の様子</b></p>	<p>○アプリ化してあるので、生徒が iPad の画面に触れた際、ピンチ様の接触になっても誤動作（編集画面に戻る）は起こらず、円滑に操作して状況を進行することができた。</p> <p>○最重度の生徒でも頸を回旋させて頬で画面に触れることで操作ができ、役割を果たすことができた。</p> <p>○アニメーションの画像の面白い動きや好みの音響などの効果で、離席が課題となっている生徒でも大型モニターの方に注意を維持しながら参加を継続することができた。</p>
<p><b>その他 （使った教材の作り方や 保存場所など）</b></p>	<p>○人選及び確認場面のアニメーションは Keynote でスライドを作成しムービーに書き出し使用した。肢体不自由の生徒が画面操作をすることを考慮して最終的に Unity で編集してアプリ化した。通常、指先のタッチで画面操作が可能であれば PowerPoint や Keynote だけで作成ができる。その際、画像にリンクを貼ってボタンとして機能させ、スライド間を移動させるなどの工夫が必要。</p>